



高井戸東小学校

URL <http://www.suginami-school.ed.jp/takaidohigashisyou/> TEL 03-3304-5711

1月号
No. 623

体験と経験を

校長 馬場 章弘

あけましておめでとうございます。

年が改まり、3学期がスタートしました。学校にまた子供たちの元気な声が戻ってきました。今年は巳年。十干十二支でいうと「乙巳(きのとみ)」、再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年にしていきたいですね。

昨年度の1月号で何を書いたか読み返してみると「魂を込めて何か一つのことをなそう」などと大それたことを書いていました。2024年を思い返してみると、大きなことではありませんが、それなりに新しいこともできました。学校では1月に『畔の仲間』という、ビオトープの世話をする会が有志によって発足しました。1年間活動を続け、ちょっとした噴水やらランプやらが設置されました。何かの用事で暗くなつてからビオトープの近くを通った方はご覧になつたのではないかでしょうか。春は桜の花びらが、秋はイチョウの葉が入るのを防ぐために、しばらく網をかけてありました。センリョウやマンリョウなどの木も、苗木を植えました。これからは氷がはるのが楽しみです。私個人としては、近年目標としていた「天の川の撮影」に成功し、たまに眺めては悦に入っています。流星群の撮影は今後の目標です。

二学期の保護者会でもお話ししましたが、昭和の教室の様子と令和の教室の様子では、ずいぶんと変化しています。背筋を伸ばして前を向いて授業を聞いたりノートをとっている子はもちろんいるのですが、背筋が弱く姿勢を維持できなかつたり、ちょっとしたざわめきが気になって集中できない子供たちは増えてきています。昭和のときのようなことを要求しても、10%以上の子はついてこられません。それに加えて驚くのが、生の体験・経験の不足です。

例えば、太陽の光を反射して太陽光の性質や光が集まった場所の温度変化を学ぶ授業です。子供たちに鏡を持たせたとたんに、大喜びで上下左右に光を反射させます。このままではいつまでたっても実験になりません。でも、子供たちは、今まで鏡で太陽の光を反射させて遊ぶという経験があまりに少ないので、珍しくてうれしくなつてしまつたのです。「あきるまで」とはいきませんが、少しやらせてあげるしかありません。ほかの学年でも金属の球を熱して膨張を確かめる実験、温度を下げるために水に金属球を入れたときの「ジュッ」という音に大喜び。夢中で何回もやっていました。それが珍しいのです。

日頃電子ゲーム機などでバーチャルな世界ばかりに子供たちは夢中になっています。まあ、大人が真剣に「夢中にさせるにはどうしたらよいか」を考えているのですから、夢中になるのは当たり前です。でもどこかで体験や経験を補ってあげないと、その先へ進むのにとても時間がかかってしまいます。

今年も子供たちにたくさんの体験や経験と学びをさせてあげたいと思っています。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

校舎南側の一番西側のイチョウですが、検査したところ、幹の内部が腐っていることが判明しました。年明けなるべく早い時期に伐採することになりました。ご承知おきください。

開校以来今まで子供たちを見守ってくれていた樹だけに、少し寂しいです。

多様性理解に向けて 古林 基子

今年度、高井戸東小では、多様性を理解するための学びを、各学年年間5時間の計画をして取り組み始めました。この地球上には、目に見える違い(人種、身体的な障害等の有無等)があつたり、目に見えない違い(価値観、考え方、宗教、目に見えにくい困難さの有無等)があつたりする様々な人がいます。「自分と違うから変!」「おかしい!」と決めつけるのではなく、自分とは違う人、感じ方や考え方方が違う人がいることに気付くところからスタートしました。人との違いを理解し、違いを受け入れることは、自分も人に受け入れられるということにつながります。多様性の理解教育で扱うべきテーマはとても幅広く多岐にわたります。大人の中にも無意識の「らしさ」や偏見に気付くことがあります。大人の価値観や言動は、子供に大きな影響を与えます。子供たち一人一人が安心して社会参加でき、自分の生き方を選択し、誰もが幸福に自分らしく生きられる社会への一歩を保護者の皆様と共につくっていきたいと考えます。